

大学共同利用機関法人自然科学研究機構

施設マネジメントの取組状況

(平成18年度の実績)

●はじめに

「大学共同利用機関法人自然科学研究機構施設マネジメント・ポリシー」に基づき、本機構が設置する国立天文台，核融合科学研究所，基礎生物学研究所，生理学研究所，分子科学研究所の5つの機関における平成18年度の取組状況を以下のとおり公表します。

●国立天文台

◎クオリティマネジメント

- ・昨年度に引き続き，研究室使用者の満足度調査を行い，研究室使用者のニーズに合った改善対策の検討を行いました。
- ・地球にやさしい施設をめざして，北研究棟改修工事の際，屋上緑化を行いました。
- ・建物の耐震対策については，耐震診断を行い，補強計画を作成し，耐震補強工事を進めました。アスベスト対策については，調査，分析を行い，対策を講じました。

◎スペースマネジメント

- ・昨年度に引き続き，研究室使用状況，充足率調査を行い，改修工事の計画においてスペースの配分見直しを行いました。また，既存施設における配分見直しも順次行い，全体的なスペースマネジメントに取り組んでいます。

◎コストマネジメント

- ・各工事において省エネルギー型の設備機器（照明，変圧器，空調機，熱交換機，換気扇，衛生器具，エレベーター）を設置しました。
- ・各工事において断熱材，照度・人感センサー照明，節水コマ，トイレ用擬音装置，集中検針装置を設置し，省エネルギー及び維持管理費の縮減に努めました。
- ・各工事において，再生利用可能な化粧石こうボードを採用するとともに間仕切壁，分電盤などには汎用品を積極的に採用し，コストの最適化に努めました。
- ・全職員へ省エネルギーの協力要請を実施しました。
- ・省エネ診断を委託実施し，省エネルギー方策の検討を始めました。

●核融合科学研究所

◎クオリティマネジメント

- ・屋上防水，建物外壁，屋外鋼製建具等について，建物修繕年次計画を作成し，それに基づいた修繕等にとりかかりました。

◎スペースマネジメント

- ・施設の利用状況調査結果に基づいた有効活用を検討し，使用頻度の低い実験室に他の部局の実験装置等を再配置することにより，有効活用を図りました。

◎コストマネジメント

- ・自家発電設備の更新によって，電気と都市ガスを合わせた一次エネルギー使用量が約 130,000GJ（ギガジュール）削減され，年間約 5,800 万円の経費が削減出来ました。
- ・省エネルギー対策として，大型ヘリカル実験棟空調用熱源の冷水 2 次ポンプ 2 台の運転制御方式をインバーター制御に改修しました。これにより約 238,000kwh/年（約 340 万円/年の運転経費）が削減出来る予定です。

●基礎生物学研究所，生理学研究所，分子科学研究所

◎クオリティマネジメント

- ・施設の点検評価の一環として，利用者に対しての満足度調査及び施設パトロールを随時実施し，これを基にした施設ハザードマップを作成するとともに改修計画を立案し，改善に取り組んでいます。
- ・安全の確保のため，手すりの改修，作業環境測定等を実施しました。さらに，建物の耐震対策については，耐震診断を行うとともに補強計画を作成し，耐震補強工事に着手しました。また，アスベスト対策については，調査，分析を行い，対策を講じました。
- ・研究活動を支援する良好な環境を確保する観点から，事業所内保育所の設置，身体障害者用等駐車場の整備，玄関の段差解消，構内案内表示の見直しを行いました。
- ・防災倉庫を設置し，救助器具や非常食の備蓄を行いました。

◎スペースマネジメント

- ・施設整備委員会のもとで，施設点検評価作業部会がスペースの利用状況調査を行いました。この集計結果をもとに各研究所において，共有スペースの確保，有効利用されていない部分の見直しを行い，有効活用を図りました。
- ・基礎生物学研究所改修工事に当たって，共同利用スペース，若手研究員スペースの確保を踏まえた改修計画を策定し，実施設計に取り組んでいます。

◎コストマネジメント

- ・省エネルギー対策として、高効率機器への更新(変圧器, 空調機, 照明等), 空調設備のインバーターによる最適運転, 人感センサーの設置(廊下, 階段, 便所等)を行いました。
- ・省エネルギー対策を実施し, 契約電力の見直しを行い, 基本料金の低減を図りました。